

Universal NEWS 10

ユニバーサルニュース

滋賀県中小企業家同友会会報誌 [ユニバーサルニュース]
VOL.10 2019年5月発行

第20回
障全交in滋賀
スローガン

人が輝くから企業が輝く、地域が輝く!

～“おかげさま”と“ええあんばいの心”でよい会社をつくらう!～



第49回 中小企業問題全国研究集会 in 長崎で障全交 in 滋賀の開催をPRしてきました。

▼第20回障全交in滋賀の実行委員会がキックオフされました。第1回目の交流会は36年前、「すべての人が働く喜び」をテーマに滋賀で開催され、14の同友会より53名が参加。その後、障害者を取り巻く諸課題の解決を目指す同友会運動は着実に拡がり、昨年の交流会(広島)には43の同友会より57名が参加する学び合いの場へと成長しました。

▼過日のキックオフミーティングで報告されたのは、中同協障害者問題委員長 比嘉多美子さん(ゆやんばるライフ専務)。「私に仕事をください。お母さんをもっと楽にさせてあげたい」と訴える養護学校卒業生の言が、比嘉さんを障害者雇用へと動かししました。今日では隣接異業種での仕事づくりで雇用を広げ、地域資源を活用した商品開発にも着手。自治体を巻き込んで行う沖繩同友会の雇用就労フォーラムは14回目を迎えるとも。

▼中小企業経営者には自社経営への責任と共に、地域課題の解決への責任があります。地域の「生きる暮らしを守る」人問らしく生きる」を実現するために、様々な問題や課題をわが事として受け止め、その解決を目指す視点が私たち同友会運動に求められています。このことを再認識し自社や地域で実践するキックオフとして、障全交in滋賀の成功を担いましょう。

(M・H)

第20回障害者問題全国交流会in滋賀 開催概要

メインテーマ

人が輝くから企業が輝く、地域が輝く!

スローガン

～“おかげさま”と“ええあんばいの心”でよい会社をつくらう!～

開催概要

日程 10月17日(木)13時開会 18日(金)正午閉会

会場 琵琶湖ホテル
(分科会5つ・懇親会・2日目全体会)

規模 500名(各同友会400名・滋賀同友会100名)

スケジュール

10月17日(木) 13:00 分科会開始～18:00 分科会終了
18:30 懇親会開始～20:00 懇親会終了
10月18日(金) 9:00 全体会 セレモニーと記念企画
11:45 まとめ・閉会挨拶
12:00 閉会

1日目<分科会> 以下3つのカテゴリーで6つ開催
1)人を生かす経営の実践を学び合う(内見学一つ)
2)経営者として同友会として障害者問題に向き合うか
3)就労困難者の雇用と定着を地域連携で取り組む

2日目<記念企画> 「映像&トーク」
糸賀一雄氏が遺した「この子らを世の光に」に込められた思想と実践を、「人を生かす経営」の視点で自社経営と地域づくりへいかす。

参加費 22,000円
主催 中小企業家同友会全国協議会
設営 滋賀県中小企業家同友会

支援の現場から ～社会的養護の支援⑤～

そもそも社会的養護のもと(児童福祉施設や里親さん宅)で生活していた若者たちには、なぜ支援が必要なのでしょう。その要因として①環境面でのサポートが乏しい、②何らかの障害を抱えている、③今までの育ちから生じる対人面での問題があるように思います。

①制度上、概ね18～20才で社会的養護のもとから出なければなりません。当然経済的にも精神的にも社会的にも家族からのサポートが得にくい、あるいは皆無という状況になることは想像に難くないと思います。
②その上で、様々な障害を抱える若者も一定数います。具体的

には知的障害、発達障害、精神障害で、その障害受容や障害者手帳の有無は様々です。
③また障害のあるなしに関わらず、家族の喪失や病気などが原因で十分な愛情がもらえていなかったり(他人に対する基本的な信頼感の未獲得)、虐待など不適切な養育などが要因で、後天的に発達障害と同様の症状として表れるような対人関係上の問題も少なからず見受けられます。

いずれかの問題を程度の差こそあれ抱えたり、複合的に絡みあったりする中で、就労支援においても個別的な支援が求められるのです。(続く)

記：認定NPO法人 四つ葉のクローバー 遠城孝幸

ユニバーサルニュース Universal NEWS

発行所 ● 滋賀県中小企業家同友会
発行責任者 / ユニバーサル委員会 委員長 田井勝実
編集責任者 / 小島滋之 城貴志 岩泉匡洋

〒525-0059 草津市野路8丁目13-1 KE草津ビル1階
TEL.077-561-5333 FAX.077-561-5334
E-mail: jimushiga.doyu.jp URL https://shiga.doyu.jp/

2019. May
VOL.10 2019年5月発行

2019年 障害者問題全国交流会 in 滋賀

キックオフミーティング

とき 2019年4月2日(火)

ところ フェリエ南草津

誰にも生きやすさ・暮らしやすさのある 地域社会の担い手をめざして

「人は「働く」ことで人間(自ら)を形成」

いよいよあと半年に迫った「2019年 第20回障害者問題全国交流会in滋賀」
中同協障害者問題委員長(有限会社やんばるライブ専務・沖繩同友会)の比嘉 糸み子様をお招きし、
障がい者問題について様々な経験の中からお話しいただき、障害者問題全国交流会に向けて
改めてこの問題を考える時間となりました。
また、本番に向けた確認事項などを役割別に話し合い、改めて緊張感を持つ機会となりました。



中同協・障害者問題委員長
有限会社やんばるライブ 専務取締役
合同会社やんばる彩葉 代表者
比嘉 糸み子さん

福祉先進国と言われる 滋賀県

蔭山代表理事からの冒頭のご挨拶で、滋賀県は福祉先進国と言われており、30年前から福祉には取り組んできていますが、まだまだ障がい者雇用は進んでいないというお話がありました。経営者自らがいかに進めていくかが重要であり、第20回障害者問題全国交流会in滋賀が障がい者雇用の推進のきっかけになるようにとの意気込みを語っていただきました。



地域の発展とともに 広がる格差

中同協・障害者問題委員長を務められている比嘉さんが、沖繩に嫁いで来られた頃は沖

縄本部町には信号機もなかったそうです。それがどんどん栄え、ホテルが増え観光業が発展し、沖繩は著しく変わっていききました。それとともに貧富の格差は広がり、子どもの30%近くが貧困で全国的にも沖繩はトップとなりました。そんな沖繩で経営をしてこられた比嘉さんは、地域に貢献すべく経営を目指してこられました。

地域に貢献する経営

同友会に入会した比嘉さんはそこで初めて障がい者雇用を知りました。

あるとき、以前から町でよく見かける子どもが、障がい者であることを知りました。その子を知っていたのに障がいがあることには気付いていなかった自分に、「地域のことをしているのに何もわかっていなかったのだ」と思ったそうです。

また、「お母さんを楽にさせるために企業で働きたい」というその子の言葉を聞き、今まで障がい者実習も断っていた自分が情けなく思え、涙が出てきたといいます。その後、会社に戻り現場で働いている従業員の方たちに

実習を受け入れのほうかと相談。「相談するってことはもう決まっているのでしょ」とみんな受け入れてくれたそうです。

その障がい者の方は片目が弱視ということもあり、遠近感が掴みにくいだろうということで、従業員たちが現場に工夫をするなどして働きやすい環境に整備してくれたそうです。そして一緒に働いているうちに、その方の仕事に対するひたむきな姿勢に対して周囲も影響を受け変わっていったそうです。その様子を見て、「共に育つ(育ちあい)」を

感じ、人は人に動かされるのだと実感したといいます。

特性を理解し雇う

その人がどのような環境で育つてきて、どんな障がいがあるのかを予め知っておくことが大事だそうです。

重い荷物を持っている人がいると、すぐに駆けつけて助けてあげると、優しい子がいたのですが、その子は自分が欲しい高価な物を万引きしてしまふことがあるそうです。

比嘉さんはその子の万引きする癖をわかった上で雇用す



ることにし、全て知った上で雇うということをしつかりと親御さんにも伝えたそうです。自分で稼いで、自由に使えるお金を得るようになれば万引きもしなくなると思っただけだそうです。

他にも、健康保険証を手に入れたことで、周囲に促され金融機関からお金を借りて一晩で使いきったこともあったとい

います。返済の請求の電話が会社にもかかってきて大変だったとのことですが、あまり世間のことを知らないため、このように騙されることも多いそうです。

「障がい者を雇う」ではなく、「人を雇う」

今までは「なぜできない?」とばかり考えてこられました。が、そうではなく、「どうしたらできるのか」という視点を持つことが大事だと言います。少しの工夫で今までできなかったことができるようになるので、今までの考え方に反省されたそうです。人はひとりひとり



違うのだから、障がい者だから、というのではなく、人を雇うには工夫が必要なのです。

比嘉さんの会社では毎日の朝礼で1人3分スピーチをするのですが、なかなか言葉が出ずどもる人に対しても、みんながそれを暖かく見守り、待つてあげる空気が社内にできたそうです。1人障がい者の雇用で会社内で働く人たちの環境が変わったので、複数人を雇用することで会社に新しい風が吹くことになりました。

「私たちが果たす役割は大きく、障がい者雇用の障壁をなくすきっかけにしたい」と語っておられました。

グループ討論

Aさん 障がい者の方に仕事をしてもらうのは「危ない」とどうしても考えてしまいます。万が一事故を起こしてしまったらと...

比嘉さんのお話しの中にもあったように、サービス業は障がい者の方には難しい、という考えも僕の中にもありました。でもそうではなく、何かできることを探すということが大切なのですね。

Bさん 健常者にとって得手不得手があるので同僚と同じですね。まず今会社にいる人たちみんなが働きやすい環境を整えることから始めたいと思いました。それから障がい者の方を受け入れられるようにしたいと思います。

Cさん そうですね、私自身も物忘れが激しく、何か脳に障がいがあるのかなと思うことがあります。

障がいと聞くと何もできないイメージを持ってしまふのですが、できないことがあるということですよ。その人のことよく知れば、できることできな

いことがわかって、任せられる仕事はきつと見つかるのでしょね。

Dさん 今やっている仕事を、そのままやってもらおうとすることが間違いですね。マニュアル通りにはいかないものなので、その人にあった工夫をすることが必要だと学びました。

プライベートに踏み込むという話もありましたが、どの程度まで踏み込んでいいものかは悩みますね。

Aさん 私も従業員のプライベートにはあまり踏み込まないようにはしてきました。どのような家庭で育ったかは全然知りません。

Bさん 難しいですね。あまり深く踏み込まれるのは嫌な人もいますから。程々の関係性を築くことが大切ですね。

